

架け橋スタートカリキュラムの基本的な考え方

(1) 一人一人の児童の成長の姿からデザインしよう

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえるなどして、幼児の発達や学びの様子を理解した上で、カリキュラムをデザインすることが重要である。

(2) 児童の発達の特性を踏まえて、時間割や学習活動を工夫しよう

入学当初の児童の発達の特性やこの時期の学びの特徴を踏まえて、10分から15分程度の短い時間を利用して時間割を構成したり、具体的な活動の伴う学習活動を位置付けたりするような工夫が必要である。また、児童の意欲の高まりを大切に、自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていけるように活動時間を設定することなども考えられる。

(3) 生活科を中心に合科的・関連的な指導の充実を図ろう

自分との関わりを通して総合的に学ぶという、この時期の児童の発達の特性を踏まえ、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の充実を図ることが重要である。このような指導により、児童の意識の流れに配慮したつながりのある学習活動を進めていくことが可能となる。

(4) 安心して自ら学びを広げていけるような学習環境を整えよう

児童が安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるように学習環境を整えることが重要である。児童の実態を踏まえること、人間関係が豊かに広がること、学習のきっかけが生まれることなどの視点で、児童を取り巻く学習環境を見直す必要がある。

1. 架け橋期のカリキュラムを生かして架け橋スタートカリキュラムを作成しよう。

架け橋期カリキュラムの共通版第1期の「身に付けたい資質・能力」や学校区版の第1期の「目指す子どもの姿」などをスタートカリキュラムに反映させて作成しましょう。

- (1) 新1年生は、自分の力でやってみようと意欲をもっています。自分で見通しをもって行動出来るような「見て、分かって、できる」環境構成を工夫しよう。
- (2) 安心して活動できる環境の構成を工夫しよう。(R5架け橋カリキュラム作成研修資料P37参照)
- (3) 「約束やルールを教え込む」のではなく、みんなでルールを考えて共有し、「守ろう」という意識を高めよう。

4月のねらいは、「安心して、楽しく、自信をもって過ごせる」こと。

緊張をほぐすために園でやっていた手遊び歌を子どもたちに教えてもらってみんなで遊ぼうかな。

登校してから始業までの時間で自分のことができるように可視化しよう。一日の流れに見通しをもてる掲示もあればいいな。

自立心を育てるために指示が多くならないように気を付けよう。「どうしたらいいと思う?」「園ではどうしていた?」と聞くように心掛けよう。

「こんなこともできるんだね!」と、ほめて自信をふやせるようにしよう。

新しい友達とも遊べるように、自由に遊べるスペースを作りたいな。お絵かきや折り紙、読書ができるように準備しておこう。



2. 年間指導計画の「♥架け橋ポイント」を活用して単元計画を立てよう。

生活科と図工は1，2年生、国語、算数、音楽、体育は1年生に、「♥架け橋ポイント」（幼児期の経験例や環境の構成、注意点など）を掲載しています。単元の計画作成に活用してください。

令和6年度 第1学年 国語科 年間指導計画並びに実施記録						No. 1	
月	単元名 ■教材名 【書写】	指導事項	知識 技能	思考・判断・表現 話す 書く 読む	予定 時数	実施 時数	備 考
4	■はるが きた 【CT活用【A1】】	□互いの話に関心をもつこと □言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くこと	(1)ア	(1)オ	2		◆言語活動 ※他教科等との関連 ♥架け橋ポイント (幼児期の経験例など) ◆絵を見て話したり応答したりする ※生活（学校生活）
	○さあ はじめよう ■おはなし ききた いな	□読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと	(3)エ	(1)オ	2		◆読み聞かせを聞いて楽しむ ♥幼児期には、読み聞かせを聞いて友達とおもしろかったところや感想などを伝え合う経験がある。

施設によって、経験が違っていることもありまので、どんな経験をしているか、子どもたちに聞いてください。幼児期に親しんだことや学んだことが活動につながっていると分かると、子どもたちは自信をもって自己発揮できます。

園では、保育者が話しやすい場の設定や話題を工夫し、友達と協力して話合いができるようにしていました。
話すのが苦手な子どももいますので、みんなで一緒に声を出してから話したり友達と一緒に話したりするなど、緊張を和らげてあげる工夫があるといいですね。

◆名前カードを使って、友達と交流する
※生活（互いを知り、新しい仲間をつくる題材）
※図工（好きなものの絵を描く）
♥誕生会などで自己紹介をしたり好きなものをみんなの前で話したりする経験がある。

困ったこと、分からないことがあったら、先生にでも友達にでもいいからお話してね！

自分の名前や好きなことを友達にお話したことはありますか？お誕生会でやったことがあるんだね。どんなことを話したいかな？

こんなときにはどうしたらよいと思いますか？園ではどんなふうにしていたのかな。

子どもたち、やりたいことがたくさんあるんだなあ。

アサガオを育てたことはありますか？アサガオでどんな遊びをしていたのかな？
今度は、どんなことをしてみたいですか？

3. 架け橋スタートカリキュラムを実践しよう。

低学年の子どもたちにとって、教科ごとに系統立てられた知識や技能を一方的に教える方法は、その特性に合っていない。

先生からの説明や指示ばかりでは、退屈で集中を欠くことになってしまいます。そうすると、子どもをコントロールしようとする注意ばかりが増えてしまい、子どもたちが緊張し、自信や学習意欲をなくしてしまうことにもつながります。子どもたちが主体的に学ぶための直接的な関わりや体験を工夫し、先生も子どももドキドキワクワクする活動にしましょう！

- (1)子どもたちが「やりたいこと」を、「人、もの、こと」に直接関わりながら経験できる活動を工夫する。
- (2)生活科の学習と関連させた活動を工夫し、弾力的で余裕のある時間割を設定する。